

今週のメニュー

■トピックス

◇プラスチック製品のマテリアルフロー図（2014年）を公表

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（12）

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇プラスチック製品のマテリアルフロー図（2014年）を公表

（一社）プラスチック循環利用協会では、「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」をまとめた「マテリアルフロー図」を毎年作成し、広く公開しています。

2015年12月に、2014年の「マテリアルフロー図」が公表されました。

プラスチック全体については、2014年の樹脂生産量および国内樹脂投入量は2013年とほぼ同量となりました。リーマンショックを境に減少傾向を続けていましたが、確実に下げ止まっています。

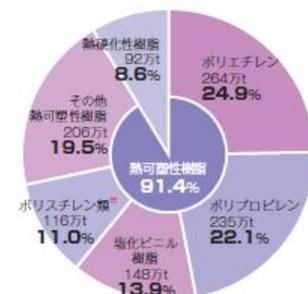
一方、廃プラスチックのリサイクルは着実に進み、「有効利用率」（マテリアルリサイクル+ケミカルリサイクル+サーマルリサイクルの比率）は年々増加し、2014年は83%に達しています。欧米では有効利用率を算出していませんが、日本は世界で最も廃プラスチックの有効利用が進んでいると考えられます。



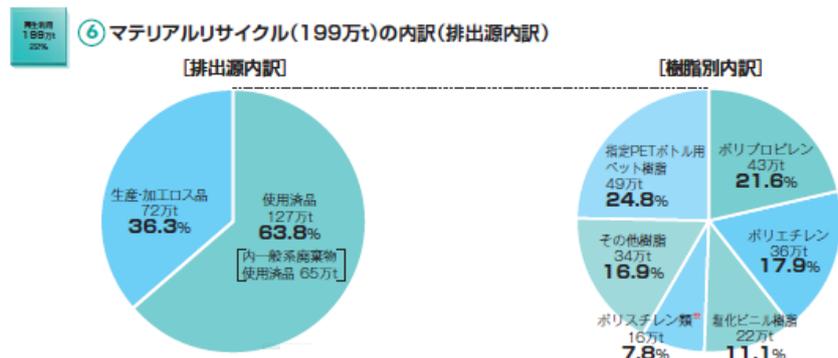
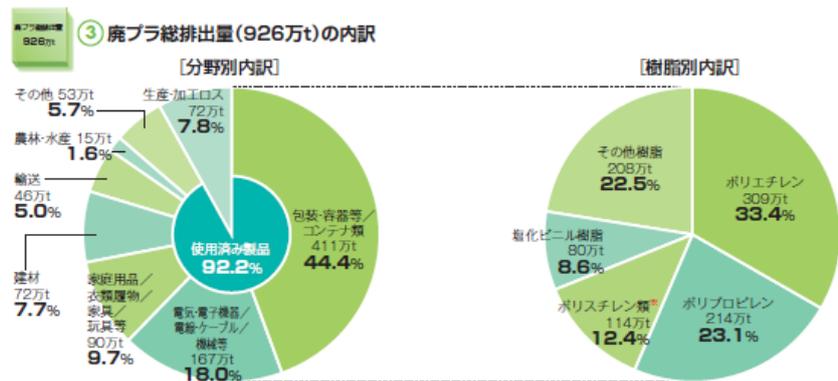
塩化ビニル樹脂については、「マテリアルフロー図」の構成要素の詳細を見ると、塩化ビニル樹脂（PVC）の特徴がよく分かります。2014年のPVCの生産量は148万トンで樹脂全体の約14%を占め、2014年のPVCの国内総排出量は80万トンで樹脂全体の約8.6%を占めます。そのうちPVCのマテリアルリサイクル量は22万トンで、排出量に占めるマテリアルリサイクル量の比率は約28%になります。樹脂全体の同比率が約21%であることから、他の汎用プラスチックと比べてPVCのマテリアルリサイクル比率は高いのが特徴です。

樹脂生産
1,061万t

① 樹脂生産(1,061万t)の樹脂種類別内訳

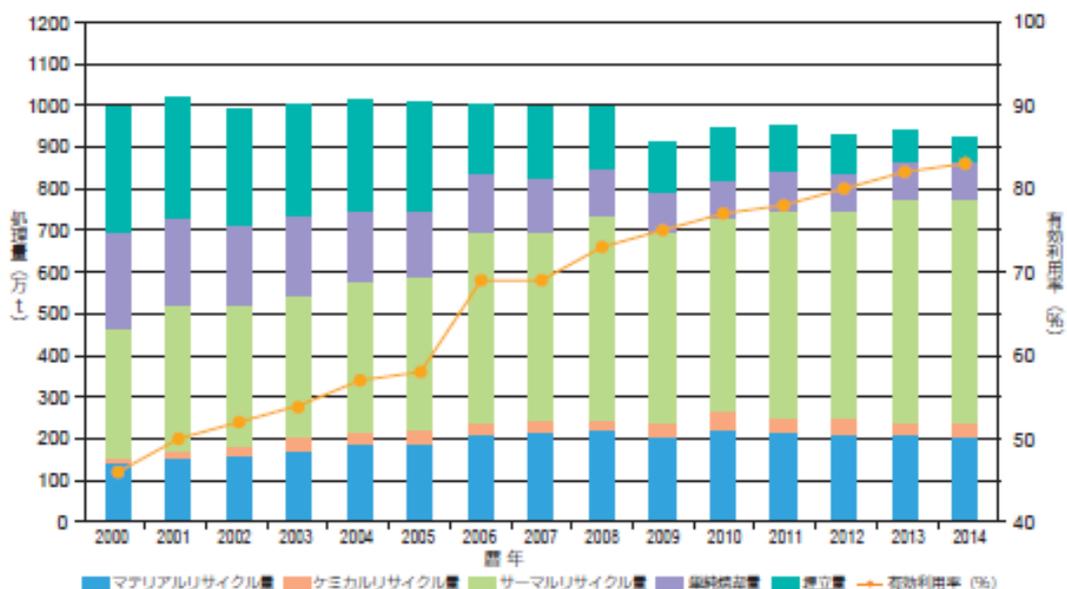


例えば、塩ビ管・継手、農業用ビニルフィルムは、古くから使用済み製品の再利用が進み、それぞれ排出量の6～7割が回収され再使用されています。また、タイルカーペットでは、使用済み製品の塩ビコンパウンドの分離・再利用が進んでいます。



マテリアルフロー図に一昨年から環境負荷削減効果を掲載しています。これは、廃プラスチックを有効利用しなかった場合に対して、廃プラスチックを有効利用によって回避されたエネルギー消費量および回避されたCO₂排出量を意味するものです。2014年のCO₂削減効果は1,678万トン(対前年比45万トン増加)です。2011年から2014年まで4年間に廃プラスチックの有効利用率が78%から83%に上昇したことに伴い、CO₂削減効果は120万トン向上しました。このように、廃プラスチックの有効利用が着実に進み環境負荷削減に貢献していることがわかります。

廃プラスチックの総排出量・有効利用量・未利用量・有効利用率の推移



■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（12）

木下 清隆

<前回とのつながり>

伊勢の櫛田神社の祭神は昔から大若子命として伝承されてきている。ところがこれを裏付ける史料は何も無い。唯一頼みに出来るのは『倭姫命世記』であるとして、前回までに『倭姫命世記』を検討してきたが、その可能性は高いことが分かってきた。今回からは次なる資料の検討である。

3. 倭姫命世記

二つめの資料は櫛田神社の由緒書きである。この資料は筑紫豊氏が『櫛田神社祭神考』（神道宗教、一九六七年七月号）の中で、伊勢の櫛田神社を昭和三十七年に訪れたさい、そこの宮司から入手されたものとして、全文が紹介されているものである。その主要な部分を引用すると、

「本社は、所謂式内社として其の御由緒の古き尊きが故に、古来朝廷の尊崇厚く、毎年祈年祭の奉幣ほうぺいに預り給へる神社なり。…古来神宮の殿舎は二十年毎に造替の例にて、其時神宮の七院と社十二処とを造替せられしが、延喜大神宮式には、その十二社中に櫛田社を挙げられ、応永九年（一四〇二）の造外宮諸殿頭上注進状に“貳拾貫文くしだやしろ”とも明記せられ居ること、… 櫛田神社が斯くの如く尊崇せ



伊勢 櫛田神社

られたることは、垂仁天皇の御代以来、神宮とは最も深き御縁故を有せらるるが故なり。… 本社はもと広大なる社域を有せしものの如くなれども、中世以降衰頹し、江戸時代初期に於ては、社も無く絶え果て、慥かなることは知る人も無かりし由、山中為綱の『勢陽雜記』に見えたり。本社の社地に就いては、諸書あり。多くは櫛田村に在りとす。… 本社の祭神に就ては出口延経の『神名帳考証』（享保十八年、一七三三）、鈴鹿連胤の『神社叢録』（明治三年、一八七〇）、及び『勢陽俚諺』、『勢国見聞集』等、櫛玉命とし、延経の『伊勢国神名帳考証』及び伴信友の『神名帳考証』には、此神は此の国の地主神として奉祀せられたるものとす。… 何故にこの神をこの地に奉祀せるか由縁明らかならず。… 依りて橋村正身の『神名帳考証再考』（明和六年、一七六九）には、本社の祭神を櫛玉命となすことを否定したり。かくの如くにして藤堂元甫監修の『三国地誌』、秋里籬島の『伊勢参宮名所図会』、古屋久詰の『布留屋草紙』、及び『背書図誌』、『勢陽五鈴遺響』には、垂仁天皇の御代、倭姫命、皇大神を奉じて各地を御巡行の際、命に供奉したる大若子命を以て本社の祭神なりとし、爾来、復異説無く、以て現代に及べり。」

と云ったものである。これを要約すると、

- ① 櫛田神社は式内社であり、朝廷の尊崇が篤かった。
- ② 外宮の遷宮造替時に櫛田神社も同様の造替が行われた。
- ③ 中世以降衰退し、江戸時代には社がなくなった。
- ④ 櫛田神社の祭神は江戸中期頃までは、櫛玉命とされていたが、途中で大若子命に替わり、それ以降この命が祭神として定着した。

とまとめられよう。この中で式内社とは、『延喜式』神名帳に登載されている全国二八六一社（祭神三一三二座）の神社のことをいう。神社が式内社であるか否かは、その神社の社格を表わす基準と考えられていたことから、櫛田神社が式内社であることは、かなりのレベルにあったことを示している。

ただ、この式内社に石清水八幡宮、吉田神社、北野天満宮、祇園社等、山城国の主要神社が抜けており、その選定基準は定かではない。筑前国那珂郡においては、菅崎宮と住吉神社は含まれているが、香椎宮と櫛田神社は落ちている。

なお、この神名帳には当時の国ごとの神社名は記載されているが、祭神については全く触れられていない。

次に祈年祭であるが、これは、その年の稲の豊穰を神々に祈願する祭祀の一つで、二月に行なわれている春の大祭である。奈良時代はこの日に、各地の式内社の祝部が神祇官に参集し幣帛を受け取っていたが、受け取りにくる者が次第に少なくなったために、平安時代に入ると神祇官から幣帛（財貨・食物等）を受ける官幣社と、国司から受ける国幣社とに分けられた。

奉幣は天皇の命により神社等に幣帛を奉ることで、伊勢神宮、賀茂神社等極めて社格の高い神社のみがその対象となった。従って、伊勢の櫛田神社が奉幣に与った、とあるのは普通では考えられないことで、記述が間違ないとすれば、破格の扱いを受けていたことになる。更に、二十年ごとの式年遷宮のための外宮の造替時に、櫛田神社も造替されていたということは、これも破格の待遇である。

櫛田神社がこのような厚遇を受けた理由として、「古来朝廷の尊崇厚く、…垂仁天皇御代以来、神宮とは最も深き御縁故を有せらるるが故なり。」と説明されているが、何故、外宮の摂社でもない櫛田神社が、これほどの厚遇を受けたのかの理由は明らかではない。余程それにふさわしい神がこの神社に祀られていたとしか考えられないが、記述が天照大神の国家神としての位置付けが確立した時代であることから考えると、この天照大神にゆかりのある神であることが、その対象として絞られてこよう。



式内社

左：菅崎宮(福岡市東区)、右：住吉神社(福岡市博多区)



式外社（式内社から外れた神社）

左：石清水八幡宮(京都府八幡市)、右：祇園社(京都市)

この時代の神々の世界は、基本的には記紀に記載された神々が支配的だった時期と考えられることから、記紀の神々がその対象となってくるが、これほどの厚遇を受ける神は記紀の中には見当たらない。この時代のことを考える上において、考慮しておかなければならないも一つの重要な事項がある。それは前述した伊勢神宮創建記の中の、

「太陽信仰の天皇による独占化により、源平両氏をはじめとする賜姓皇族にとっては氏神を奪われた形となり、氏神を伊勢以外に求める現象が生じた」

とする個所である。これは、岡田精司氏による当時の社会現象についての指摘であるが、この時代、何か求められていたとの認識は、現代からは想像できない重要な視点と云えよう。岡田氏はどのような神が求められたのかまでは言及していないが、天照大神にゆかりのある神で、天照大神に替わる神が求められていたとするなら、考えられる候補としては、大若子命以外には無いことになる。

律令体制が整備されていく中で伊勢神宮の絶対化が推し進められ、そのことによって伊勢神宮は皇族にとって遠い存在になっていく。このようなとき、神宮創建の功臣としての大若子命と、この命を祭神とする櫛田神社の名声は皇族の中で、急速に高まっていった可能性は有り得よう。しかし、この度会氏の祖とされる名も無い神が突然のように人々の前に現れ、ここに想定するような名声と皇室の厚遇を受けたことが事実とすれば、何か仕掛けが在ったはずである。その仕掛けが先に述べた『太神宮本記』だった可能性はある。

御巫清直がいうようにこの本記が、八世紀の中葉頃までには存在していて、この内容が『倭姫命世記』に受け継がれているとするなら、この世記がほとんど大若子命の宣伝本に成っていることから、このことは理解される。伊勢神宮から出された『太神宮本記』なる書に当時の多くの皇族たちは、自分達が全く知らなかった神宮創建の功臣、大若子命なる度会氏の祖を見出して驚くと同時にこれに親しみ、これを祭祀する者も現れたのではなかろうか。このような想定がある程度、的を射ているとするなら、先の、「古来朝廷の尊崇篤く、…垂仁天皇御代以来、…深き御縁故を有せらるるが故なり」の意味も無理なく理解されることになる。(なお、ここで想定していることが、実は本当であったことを示す神社が存在する。このヶ所を執筆後に発見し、当時、大いに驚いた記憶がある。この神社のことと、関連事項は後で出て来る。)

櫛田神社の祭神について、以上のような想定がある程度正しいとするなら、ここでの検討結果は次のようにまとめられよう。

- 度会氏は『太神宮本記』によって大若子命を宣伝し、これが功を奏し大若子命は朝廷の尊崇を受けるまでになった。このような伝承が櫛田神社に伝えられていることからみて、櫛田神社の祭神は大若子命であるといえる。 —

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

昨年暮れから「スター・ウォーズ フォースの覚醒」が公開されていますが、この正月休みに見られた方も多いのではないでしょうか。第1作公開から既に40年近くが経ちますが、人気は衰えることを知らないようです。私も大学生時代に見た第1作の映像に衝撃を受けたことを昨日のように思い出します。

今回の映画には最初の3部作の主要メンバーが久しぶりにその姿をスクリーンに現し、また第1作目のシーンを髣髴させるような場面も多く、同窓会に出席したような感慨を受けました。(ヨッシー)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp